



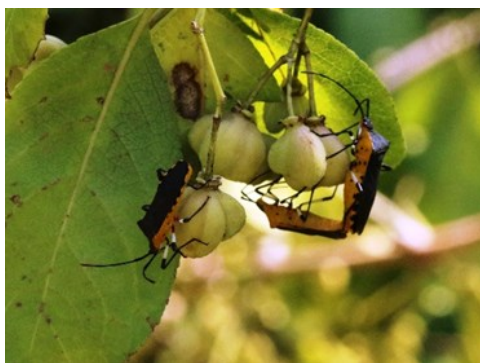
愛川ふれあいの村 今月の風景

2025年6月 自然のたより

6月中旬までは梅雨らしい気候でしたが、急激に気温が上がり夏の訪れを感じています。バッタやカマキリの赤ちゃんも姿を見せるようになってきました。アジサイの花も咲き始め、村内のいたるところできれいな様子が見られます。4～5枚の花びらが美しく咲きますが、あれは花ではないのです。装飾花と呼ばれるガク片が変化したものです。自然界ではとても不思議で興味深いことがまだまだありますね。6月は季節の移ろいを感じられます。それに伴って体調も崩しやすい時期なので健康に自然を楽しみたいものです。（小熊）



ナツツバキ（シャラノキ）



キバラヘリカメムシ



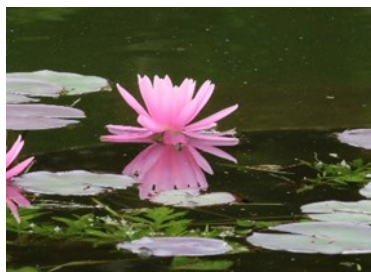
子育て中のツバメ



満開のイボタノキ



クリの雌花（緑色の部分）



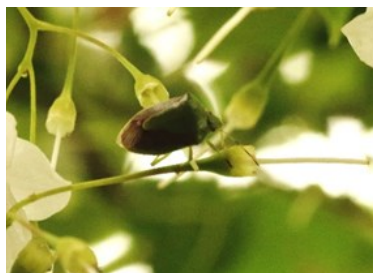
スイレンの花



幸せの5枚ドクダミ



エビイロカメムシ



チャバネアオカメムシ



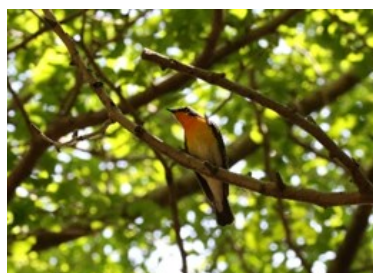
クズの葉にいるマルカメムシ



ヨコズナサシガメ



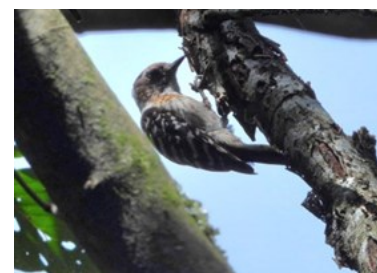
サンコウチョウ



キビタキ



ムクドリ幼鳥虫ゲット



コゲラ幼鳥虫探す

トピックス

★蛍狩り★

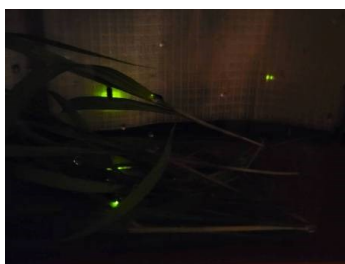
気温が高く、雨が降りそうなジメッとした夜、人が嫌がるそんな時、梅雨の夜空を淡い緑の光を点滅させながら蛍が飛び交います。蛍は古くから人気の昆虫の一つです。でも昔は見たけど最近は全然見なくなったという声も聞こえてきます。

日本の蛍、コウチュウ目ホタル科は全部で51種類ですが光らない種類の方が多く、その中で光る代表的なのがゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルです。特にゲンジボタルは日本を代表する蛍で、一般的にいう蛍はこの種類を指すことが多いようです。

ゲンジボタルは5月下旬から6月下旬頃、ヘイケボタルはそれより少し遅くみられます。最近では、あちらこちらで蛍狩り（蛍の鑑賞会）が開催されていますが、残念ながら蛍の養殖業者が放すだけの観賞会も少なくないようです。その蛍をめぐり、在来種との交配など、トラブルが発生していることもあります。一方で、全国各地で「蛍を守る会」がつくられています。川を綺麗にして蛍やその餌となる淡水性の巻貝、カワニナが住める環境をつくりだし蛍の保護活動を行っています。

ここ愛川町でも中津川の支流で、「松葉沢ホタル保存会」が長年にわたり保護活動を続けています。現在では多くのゲンジボタルやヘイケボタルが見られ6月末まで楽しむことができます。環境省の「ふるさといきものの里100選」にも選ばれています。

梅雨のうっとおしい夜、
蛍狩りで爽やかな気分にな
ってみたいかがで
しょうか？19時から
21時ころがお勧めです。
（高梨）



生き物

★ヘビ★

梅雨に入り気温も湿度も上がり、生き物たちが姿を見せ始める季節になりました。

この時期村内では、ヘビがよく見られます。雨が続くことでヘビのエサであるカエルの動きが活発になるため、ヘビの動きも活発になります。普段ヘビは薄暗く涼しい場所を好むため、なかなかその姿を見ることはありませんが、エサを探して頻繁に現れるようになります。

村内ではシマヘビをよく見かけます。去年まではあまり見ることのなかった種類ですが、今年になって同じような成長度合いのシマヘビが多く見られます。おそらく同じ時期に生まれたヘビたちが、上手に生き延びて村内で元気に暮らしているのではないのでしょうか。

村内に住み始めたシマヘビたち、これからの成長が楽しみです。（安田）



旬

★プラム★

暑い夏が始まるこの時期。村内にあるプラムの木には、ピンポン球程度の大きさの実が生ります。形は梅の実に似ていますが、違う種類です。梅を英語にすると「plum」。日本で一般に言われるプラムはスモモとも呼ばれます。呼ばれ方が紛らわしく、同じバラ科に分類されますが、色や味に違いがあります。プラムは赤や紫、黄色をしていて、食べると甘く、果肉がみずみずしく感じます。一方梅は緑から黄色をしていて、酸味が強いです。

プラムには整腸作用のあるペクチンが含まれます。暑い夏、食欲不振にもなりますが、プラムを食べてみなさんも元気に過ごしましょう。（石川）



来月の見どころ
カメムシマスタートになるう
背中にあるハートマークのあるエサキモノキツノカメムシは、産卵してもずつと卵の側にいる。幼虫が生まれても側にいることもある。見た目の美しさも素晴らしいが、子育てをしているその愛情深さは人間も学ぶことが多い。
マユミの木に生えるキバラヘリカメムシは、お腹が黄色く良く目立ち、青リンゴのような香りが人気の虫である。
カメムシの名の由来は、形が亀の甲羅に似ているから。ストロー状の口器でカボチャ、ピーマン、枝豆など野菜類をよく食べる。洗濯物に付着することもあり、害虫と呼ばれる事が多い。
昨年は果樹類を食べる害虫が大発生したが、今年はイネゾウムシの害が報道されている。イネゾウムシは、米に害を与えるので彼らの嫌うミント類を畦道に植える工夫がなされている。
カメムシは臭いというイメージがあるが、切手のデザインになるもの、スパイシーな香りがするものもある。小さな生き物を発見し地域の虫の特性と不思議をみんなで調べよう。（吉田）